

日本海鳥取から北前船がもたらしたものの全国版第16号

赤穂市観光協会提出

平成29年1月13日

投稿者 矢竹 考司（東京都在住）



今回のご当地自慢は、子供から高齢者まで「約500世帯」の氏子だけの奉仕で、大規模な祭りを執り行っている鳥取市の賀露神社ホーエンヤ祭です。

鳥取港で行われるこの祭りは「ダイドードリンコ 日本の祭り」で紹介されていました。エジプト考古学でも有名な、吉村作治早稲田大学名誉教授がプロデュースしたドキュメンタリー番組「地域創生の船行列～賀露神ホーエンヤ祭り」が放映されたのは去年でした。この中で賀露神社のホーエンヤ祭は獅子舞や幟武者・榊に大神輿などの大行列が陸を練り、海を渡たるこの神事に、各世代間がつながり、子供からお年寄りまであらゆる世代の人々が一つとなって構成され住民総出で成し遂げられていたのが描かれていました。単に祭りの紹介だけではなく、地域の今や、人と人のつながりを映し出していました。これを見て祭りには全国に発信できる力があり、住んでいる人のつながりも深めると感じましたが「祭りは日本の心のすぐそばに」いうスローガンのもと、吉村氏の冒頭の言葉には、祭りの当事者だけでなく見ている人にも力が湧いてきそうでした。

この放送の二ヶ月前、賀露神社の宮司 岡村 吉明氏から、ホーエンヤ祭の写真を見せて頂きながら説明を受けていました。宮司によると鳥取県指定無形民俗文化財にもなり、みこし・行列を乗せて千代川を下る箱船とその周りを、にわかにならふんした青年が乗ったホーエンヤ船が航行するもので、湾内を一周して豊漁を感謝するホーエンヤと呼ばれる神輿の海上行列も行われ、これが祭り最大の魅力となっているとの話でした。この祭りは約1250年前、同神社の祭神になっている吉備真備公が遣唐使としての帰り、嵐に遭い、賀露沖の島に漂着し、住民が船で陸へ奉曳（ほうえい）したとの伝承が起源だとされた事から島の近くを通り、海岸まで奉曳される話もありました。この話で、「1250年前に吉備真備が船で島に漂着が起源」「地区の500世帯」「陸と海の2つの見せ場がある祭り」等が坂越の船祭りに似ており、境内が鳥取港の前の道を渡った高台にあるのも坂越の大避神社に似ていました。

鳥取市は平成29年秋に北前船寄港地フォーラムが開かれ、その会場の一部になるのが賀露神社なので、宮司の岡村氏はこれから忙しくなると思いました。最初に竹野の人が書いた「但馬・廻船史話」を見せて頂き、岡村宮司の北前船寄港地フォーラムへの意気込みを感じました。境内には大避神社にも残っている、錆びた錨そして、1800（寛政12）年に地元の廻船業者が寄進した石灯籠があり「尾道の石工の作で、原石は北前船で運ばれてきたらしい」と説明して頂きました。尾道市の学芸員の西井さんから、尾道の石は全国の北前船寄港地に残っているのので、平成30年のフォーラムまでにそれを調査すると聞いていたので、地元でわかなくても、寄港地側に残る石造物から発見できる例で古文書と同等の価値があるのもわかりました。また北前船を縮小した木造船の模型がある倉庫も見せて頂きましたが、かつては北前船の交易が盛んだったことがわかりました。

鳥取の次に行った島根県文化財の松江のホーランエンヤ祭は、もともとあった祭りに北前船の船頭が新潟から囃子等の文化を伝えたらしく、似た祭りの文化は全国で17カ所ありいずれもが新潟より南の北前船寄港地にあり、鳥取市の賀露神社ホーエンヤ祭りも分布図にありました。瀬戸内海では広島と大阪にありましたが坂越の船祭りにその掲載はありませんでした。

9月に行った秋田の「土崎神明社祭の曳山行事」については観光案内人の佐藤節子さんから紹介された土崎図書館の桜田館長から話が聞けました。熊本や江差から囃子等が北前船の船頭が伝えたらしく、祭りに寄進したのも廻船業者だった事も教えて頂いた後、山車が北前船の形をしている事を知りました。またこの祭りがユネスコの無形文化遺産として『山・鉾・屋台行』のテーマで一括登録の報道があった12月1日、佐藤さんとは祭りの話で盛り上がりました。

これ迄の寄港地の祭りを調から、もともとあった祭りに北前船の船頭等を通じてお囃子や掛け声が伝わったり、また寄進等を通じて祭りにかかわっていたケースの方が多いがわかりました。また青森県のように北前船航路が確立する以前から活躍していた近江商人が伝えたと言われる祭りや、北前船が関わっていた祭りがあるかも知れないので、これから野辺地歴史を調べる会の鈴木幹人会長に聞いて、次回以降青森野辺地から取り上げます。

終わりに、坂越の船祭りが始まった18世紀始めの頃の坂越は、廻船業が全盛期だった時期で、多くの神社仏閣が再建された時期とも重なっていて、松江、鳥取のように、もともとあった祭りに北前船が影響したのではなく、廻船業者が当初から関与した可能性がありそうで、これは秋田土崎の祭りの始まりと似ているようですが、坂越の船祭りと北前船との関係は何もわかりません。しかし1699年に既に酒田には大西家の墓が今も残っている事や佐渡に残る客船帳には坂越船籍の船が51隻もあった事から、新潟にも寄港していた可

能性があり、坂越の廻船業者が新潟の祭りを見て参考にした事も考えられます。

発行者 門田守弘（坂越のまち並を創る会会長）